



あめ なか はし ある 雨の中を走ると歩くのと、どちらがぬれないの

どちらもほとんどかわらない

あなたは外出先で、とつぜん、にわか雨に降られた経験がありませんか。人々は、大あわてで、大きな木の下や、近くの家ののき下にかげこんだりしますね。そのとき、人々はぬれないように、けんめいに走ったりしますね。その走るきよりは、せいぜい100メートルか200メートルぐらいです。

こんな短いきよりを速く走っても歩いてても、木の下や、のき下に行きつく時間は、そんなに変わりません。このときのぬれかたは、そんなにはかわらないのです。

ただし、4キロメートルも先に行きつくのに、1時間かけて歩いていくのと、たった10分で走っていくのでは、まるでぬれ方がちがいます。

あめ なか はや はし はし 雨の中を早く走ると、ゆっくり走るとくらべると

雨の中を速く走ると、ゆっくり走るとくらべると、理論的には、速く走ったほうがぬれません。雨は走る人の前面と、上面にあたります。この2つの面にあたる雨の量を合計すれば、走るときのぬれ方がわかります。前面にあたる雨の量はいつも同じですが、上面にあたる雨の量は、時間がたつにしたがって増えていきます。ゆっくり走ったほうが、ぬれるのです。速く走ったほうが、ぬれないということになります。

でも、これは理論上のお話で、実際は、わたしたちが町中で、ぬれないように、ちょっとのきよりを走るときには、ほとんど差はありません。(監修・青木 国夫)

